

しらはたばやしせいせき いしどりやちょう  
白幡林遺跡は花巻市石鳥谷町に位置し、JR 東北本線石鳥谷駅の  
なんせい ひょうこう きたかみがわせいがん にまいばしだんきゅう りっち  
南西約 1.4km、標高約 100m の北上川西岸、二枚橋段丘上に立地  
しています。

ほん いせき けんせつ ともな はくつちようさ  
本遺跡は石鳥谷アイスアリーナ建設に伴い、発掘調査が行われ、  
じょうもん おと あな へいあん  
縄文時代の陥し穴・縄文土器、平安時代(約 1200～1100 年前)  
たてあなじゅうきよあと はじき すえき えど みぞあと すりばち  
の竪穴住居跡や土師器・須恵器、江戸時代以降の溝跡や播鉢など  
が見つかりました。

とう ちよ  
平安時代の竪穴住居跡は 13 棟発見され、多くの住居内には貯  
ぞうけつ たりよう  
蔵穴が見つかっています。この貯蔵穴や住居内からは多量の土師  
てつせい ひょうめん  
器、須恵器や鉄製のやりがんなが 1 点出土しました。土器の表面  
ぼくしょ もじ こうぐ きざ  
に墨書で文字を書いたり工具で文字などを刻んだものも数点見つ  
かっています。

か ば  
このように本遺跡は、縄文時代には狩り場として用いられ、後  
しゅうらく  
の平安時代には人々の暮らした集落として、さらに江戸時代以降  
こんせき  
にも生活の痕跡が  
ふくすう  
残されるなど複数の  
の時期にわたって  
利用されていまし  
た。



空撮写真(1994年調査) ※右奥の建物は石鳥谷図書館